議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書
R７年２月（一般用）

『地方消滅２～加速する少子化と新たな人口ビジョン』

続編

人口戦略会議【編著】/中央公論新社（2024/11）

ベストセラー『地方消滅』から10年。いまだ少子化は加速している。続編となる本書では、2100年には人口が約２分の１となりうる状況の打開策を探る。人口減少を止められなかった原因を探り、雇用問題なども含めた未来の課題を考える。

『闇バイト～凶悪化する若者のリアル』

犯罪

廣末登【著】/祥伝社（2023/7）

「闇バイト」はなぜなくならないのか？ 非行経験のある犯罪学者が当事者を取材する。「闇バイト」を取り仕切る半グレや犯人の更生に従事した保護観察官の声から見えてくる真実。失うもののない「無敵の人」を生み続ける社会構造に警鐘を鳴らす。

『まっとうな気候政策へ』

環境

西岡秀三・藤村コノヱ 他【著】/地平社（2024/10）

夏が暑すぎる。もう限界だ！ 気候変動が猛威をふるい、脱炭素を中心とする対策は待ったなし。日本政府の脱炭素の目標設定、省エネや再生可能エネルギーの普及手段、原子力発電との関係などについて、著者を含む計52名の第一線の研究者が提言する。

『世界の富裕層は旅に何を求めているか～「体験」が拓くラグジュアリー観光』

観光

山口由美【著】/光文社（2024/7）

オーバーツーリズム、地域還元、環境配慮の面で有益だと注目されている「ラグジュアリー観光」。旅行者数は全体の１％程度だが、消費額は全体の13%以上を占めており、経済効果の面で特に期待が高まる。旅行者の求める「体験」とは何かを解説する。

『賃上げ 値上げ インバウンド』

経済

鴨頭嘉人【著】/鴨ブックス（2024/10）

今、どん底の日本経済。その大逆転の肝となるのが「賃上げ 値上げ インバウンド」。価格競争に明け暮れ、デフレマインドがしみつき、メディアによる盛大なネガティブキャンペーンにより疲弊してしまった、見るも無惨な日本経済の逆転方法とは？

『ICT教育の現実と未来～学校現場での実践と課題』

教育

古壕典洋・手島純【編著】/彩流社（2024/9）

コロナ禍以降急速に広まったGIGAスクール構想とICT教育。そのメリット・デメリットとは何か？ 執筆メンバーを学校の先生に絞り、現場のリアルな声を集め、そこから未来を考える。教育の日常から目を背けずに「ICT教育の現実と未来」を考察する。

『群馬が独立国になったってよ』

郷土

木部克彦【著】/言視舎（2024/10）

X月X日、突然、群馬が独立国に！？ 大統領は公選で報酬は月15万、国会議員20人は「くじ引き」で選ばれた有償ボランティア、議会は夜間と土日、小さい国だからこそできる年金制度、食料自給率100%以上を標榜（ひょうぼう）！ 地域活性化で社会再生を目指す物語。

『介護格差』

介護

結城康博【著】/岩波書店（2024/8）

団塊世代が後期高齢者になり、団塊ジュニア世代が50歳を超える2025年。介護問題は深刻化する。経済、医療、健康、情報、地域、親類縁者、世代間、意識をキーワードに、介護保険の実態や課題を解説。皆が安心して介護を受けられる決め手を探る。

『だから、スターバックスはうまくいく。～スタバ流リーダーの教科書』

ビジネス

毛利英昭【著】/総合法令出版（2023/6）

スタバで働く人はなぜみんな笑顔なの？ そんな疑問を「人材マネジメント」の視点から分析。従来の「指示命令型」でなく「自律型」の人材育成で、パートナー同士がお互いに教え学び合う環境作りがカギである。働きやすい環境づくりの参考書！

▶「介護」に関する書籍

『あなたの介護は誰がする？～介護職員が育つ社会を』

川口啓子【著】/クリエイツかもがわ（2024/6）

介護をめぐる問題の１つ、介護職員不足。介護福祉士の養成校は激減。専門職の育成は窮地に立ち、人手不足による施設の撤退があいつぐ。介護職員が育ち、必要な人すべてが介護を受けられるために。

『ビジネスケアラー～働きながら親の介護をする人たち』

酒井穣【著】/ディスカヴァー・トゥエンティーワン（2023/7）

少子高齢化が進む日本。「仕事と介護の両立」は、個人だけでなく社会全体の問題だ。担い手不足、介護離職などの課題を、仕事と介護の両立支援サービストップ企業副社長である著者と考える。

『ケアマネジャーはらはら日記』

岸山真理子【著】/三五館シンシャ（2021/7）

47歳から現在まで、現役でケアマネージャーととして働く女性の、怒り、悲しみ、不安の日々を綴る日記。日々、要介護者の感情に向き合わねばならないケアマネジャーの大変さがリアルにわかる。

『男が介護する～家族のケアの実態と支援の取り組み』

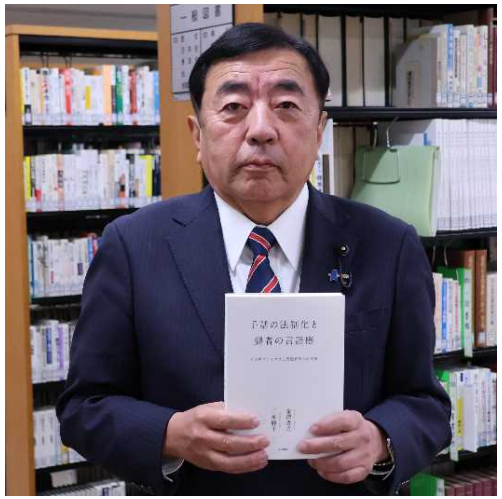
津止正敏【著】/中央公論新社（2021/3）

男性(夫/息子)が担い手の３分の１を占めるようになった家族介護。しかし追い詰められた故の虐待、心中などの事件が後を絶たない。悲喜こもごものケアの実態、介護男性が集うコミュニティ活動などを紹介しエールを送る。

図書広報委員がおすすめする一冊

『手話の法制化と聾者（ろうしゃ）の言語権～そのポリティクスと課題解決への視座』

著者：金澤貴之･二神麗子/生活書院（2024年8月）



紹介者：松本　基志　委員

自由民主党・高崎市選出・２期

日本の手話教育の第一人者である群馬大学の金澤貴之教授と、その教え子であり日本社会事業大学の二神麗子講師が執筆した本書は、手話の法制化について考察した秀逸な一冊である。

手話の法制化が、国における手話言語法の制定ではなく、全国の自治体で手話言語条例として急速に制定されてきた過程を、各地で条例制定に携わった立場から詳細に考察している。

さらに、手話言語条例制定を通して、自治体における政策決定・法制化プロセスを明らかにするという画期的な一冊。

手話に興味のある方や手話を学ぶ方だけではなく、地方政治・行政に関わる方に是非、読んでいただきたい一冊です。

次号では、加賀谷 富士子 委員におすすめしていただきます！